ファルフ・リザエフ観光大臣／国営旅行会社ウズベクツーリズム総裁

ツーリズムEXPOジャパンに3倍規模で出展

ウズベキスタン 3月4日（火）

ファルフ・リザエフ観光大臣／国営旅行会社ウズベクツーリズム総裁

JATA本部を訪れ、観光促進に向けた改善策や今後の方針などについて説明しました。リザエフ観光大臣は、昨年12月のJATA訪問後、議題にあがった問題点などを本国政府と話し合い、プログラムを作成したことを明らかにし、「日本でのBtoCの取り組みにも力を入れるため、ツーリズムEXPOジャパンには昨年の3倍の小間数で出展する」方針を示しています。また、10月にタシケントで開催される観光展示会が20周年の節目を迎えることから、JATAと日本の旅行会社による参加を要請しました。中村理事長らは、「文化遺産への興味がシニアだけでなく若年層に広がっており、シルクロードなどをアピールするプロモーション活動が効果的ではないでしょうか」と応じ、6月の実施に向けて動いているファムツアーにもJATAとして協力する意向を伝えました。

会議では韓国商品開発に向けて活発な議論が行われました。

挨拶するKTO鄭日本チーム長

韓国で商品企画実務者研修・企画会議を開催 付加価値の高い商品造成に向け新たな一歩

JATA海外旅行推進部は3月19日から21日の3日間にわたり、韓国で商品企画実務者研修・企画会議を開催しました。

昨年大きく落ち込んだ日本から韓国への渡航者数の回復と2015年の日韓国交正常化50周年を見据え、JATAと韓国観光公社と韓国旅行業協会（KATA）、韓国の地方自治体関係者らとの相互協力を深めるため、2月初めに菊間潤吾JATA会長を団長とするミッションが韓国を訪問。その際に2014年度における訪韓日本人数の300万人達成に向けて、社歴10年程度の韓国企画担当者による視察や新たな企画商品造成を目的とした企画会議と韓国の新観光スポットを回るファムツアーの実施が確認されています。

今回のファムツアーでは、ソウルと仁川で商品化されていない歴史的・文化的なエリアや各博物館などの新施設を視察し、韓国側の自治体やサプライヤーとのビジネスミーティングなどを行いました。ファムツアーとミーティングを通じて、今が韓国商品の変革にとってチャンスであることを再認識すると同時に、韓国の関係者とのネットワークを構築できたことで、参加した各社は付加価値の高い商品造成に向けて新たな一歩を踏み出しています。

要人往来

4月1日、海外渡航自由化50周年を迎えました。夢の夢だった海外旅行も今では宇宙旅行が実現しようかという時代です。次の50年後には5000万人、いや1億人の日本人が海外旅行する時代が来ているかもしれませんね。

メコン5カ国（カンボジア・ラオス・ミャンマー・タイ・ベトナム）観光関係者の代表5人

JATA通じてセミナーや視察旅行を

メコン5カ国代表 2月20日（木）

東京で開催された「日・メコン官民観光促進フォーラム」のため来日したメコン5カ国（カンボジア・ラオス・ミャンマー・タイ・ベトナム）観光関係者の代表5人がJATA本部を訪問し、日・メコン間の旅行者増加のための課題とその対応策などについて協議しました。JATAを訪れたのは、カンボジア観光省ASEAN・国際協力局のソマティア・チュラローン副局長、ラオス情報文化観光省観光局ラオス旅行業協会委員長代行を務めるメコン・ラオストラベル社のカムタン・ケウンパンナ社長、ミャンマーホテル観光省のティダ・アウン課長補佐、タイの日本専門旅行会社J-Plan Holidayのパッタナー・ニティパッタナパンヤー社長、ベトナム旅行会社協会のレー・ディン・チエン事務局長の5氏。JATA側は、観光促進に向けた問題点の解決に協力していく意向を伝えると同時に、JATAを通じてセミナーや視察旅行など様々な手法を活用して欲しいと応えました。

各国からの招待者と記念撮影（最前列右から3人目が菊間潤吾会長、右隣が林田建夫海外旅行推進委員会副委員長、米谷寛美参与）

オープニングセレモニーで挨拶するパク・ウォンスン ソウル市長

菊間会長がDDPオープニング式典に出席

JATAの菊間会長は3月21日、2009年10月に誕生した東大門歴史文化公園の敷地内にオープンした東大門デザインプラザ（DDP）の記念式典に出席しました。DDPは、ソウル東部の新たなランドマークとして注目を集めており、今後のソウル観光における目玉的存在となることが期待されています。